

第3回 徳島市立学校適正規模・適正配置等検討委員会 議事録

と き 令和7年7月16日(水)
 午前10時から
 ところ 徳島市役所13階
 第一研修室

◆出席者

[委員]

	選出区分	所属・職	氏名
1	学識経験者	徳島大学大学院教授	小川 宏樹
2		徳島大学大学院教授	奥嶋 政嗣
3		四国大学教授	奥村 英樹
4		鳴門教育大学大学院客員教授	竹内 敏
5	学校関係者	徳島市・名東郡中学校長会会長	安西 政和
6		徳島市・名東郡小学校長会会長	山崎 眞弘
7	地域代表	徳島市コミュニティ連絡協議会会長	島田 和男
8		徳島市民生委員児童委員協議会会長	木村 洋一郎
9	保護者代表	徳島市・名東郡PTA連合会中学部会代表	大杉 麻弥
10	公募委員		細川 充美

(敬称略)

[事務局職員]

所 属	役 職	氏 名
教育委員会事務局	教育次長	福田 美知子
教育委員会事務局	教育次長	谷中 智徳
教育委員会事務局学校教育課	課長	三並 亜希

教育委員会事務局学校教育課	課長補佐	山中 祐二
教育委員会事務局学校教育課	課長補佐	田中 健介
教育委員会事務局学校教育課	学事係主査指導員	鶴澤 宏明
教育委員会事務局学校教育課	学事係長	三木 梓
教育委員会事務局総務課	課長	谷口 智也
教育委員会事務局総務課	課長補佐	仁木 純一郎
教育委員会事務局体育保健給食課	課長	井上 富夫
教育委員会事務局体育保健給食課	課長補佐	山崎 雅和

◆次第

1 開会

2 議題

- (1) 第2回検討委員会でのご意見とその対応
- (2) 適正規模・適正配置に向けた検討(全3回予定のうち第2回)

3 閉会

【配付資料】

- (1) 徳島市立学校適正規模・適正配置等検討委員会 第3回会議資料
- (2) アンケート調査用紙(委員意見反映後)

◆内容

1 開会

【事務局】

ただいまから、第3回徳島市立学校適正規模・適正配置等検討委員会を開催いたします。

会議に入ります前に、本日、欠席されております委員は2名であり、全12名の委員うち10名がご出席いただいておりますので、検討委員会設置要綱第6条第2項の規定による委員の半数以上の出席が適っておりますことをご報告いたします。

それでは、ここからの進行は、検討委員会設置要綱第6条の規定に基づき、委員長に議長をお願いいたします。

【委員長】

それでは会議を進めてまいります。

お手元の次第の裏面に、第1回会議の際にお示したスケジュール案について、具体的な日付を入れて再度配布させていただきます。

こちらを見ますと、次回の第4回会議で、本会議のメインのところになります適正規模・適正配置に向けた検討と、付帯する事項、プール・給食調理場についてもご意見をいただきたいと思っておりますのでお願いします。

なお、会議の時間の都合上、事務局からの資料説明についてはポイントだけに絞って簡略化していきますので、お願いします。

それではまず、前回、委員の皆さまからご意見があったアンケート調査の内容の変更点、付帯的課題の協議の状況等について事務局より報告をお願いします。

2 第2回検討委員会でのご意見とその対応

【事務局】

お手元の第3回会議資料の1ページ、「第2回検討委員会でのご意見とその対応」により、ご報告いたします。

まず、アンケート調査の内容変更・追加等についてでございます。

第2回会議では、大きく分けて7つのご意見・ご指摘をいただいております。

それぞれの項目について、対応方法を検討し、表中、右側の内容で対応いたしました。

一部、国の状況や他の質問との絡みなどを考慮した結果、ご指摘どおり対応しない

こととした部分もございますが、その状況を○・×・△で表現し、具体的な対応内容を含め記載させていただいております。

対応内容のうち、1点説明させていただきます。

No.2の「アンケート内に検討会資料や検討内容を把握できる環境を追加すべき」とのご意見への対応についてでございます。

本日配付資料のアンケート調査用紙、1ページをご覧ください。

地域、保護者、教員を対象としたアンケート調査を行う際の依頼文右下部分に、徳島市ホームページ上の、本検討委員会掲載ページのアドレスと紐付けたQRコードを掲載し、興味のある方が、検討会資料や検討内容を把握できる環境を整備いたしました。

アンケート調査用紙の2ページ、3ページをお願いします。

あわせて、参考資料として、適正規模・適正配置等の検討の必要性についての説明資料を作成し、アンケートに回答する前に、必ずご一読いただくよう、周知を行いました。

これは、アンケートに回答いただく皆様に、児童生徒数の将来推計や施設コストの今後の状況等、必要と思われる情報を事前に共有することで、本アンケートの実施目的を正確にお伝えするために行った対応です。

また、3ページの末尾には、「回答にあたってのお願い」として、回答いただく際の注意点及び回答結果の取扱いについて、説明文を掲載しております。

なお、これらの追加・修正等については、アンケート開始前に委員長ならびに副委員長にご確認・ご了承をいただいております。修正後の内容で、アンケートを実施いたしましたことをご報告いたします。

それでは、第3回会議資料の2ページにお戻りください。

2の付帯的検討事項について、前回会議での協議内容のまとめを掲載しています。

プール施設について、小学校では、様々な手法・場所において実技を継続できるよう努めることとし、プール施設についても何らかのかたちで存続に努めることとされた一方、中学校では、座学の履修は継続するものの、実技及びプール施設については、廃止もやむを得ないのご意見でした。

次に、給食調理場については、施設の集約化・センター化についての検討を進めるとの方向性が示されました。

また、その他の留意事項として、校舎・プール・給食施設等の既存施設については、統合・廃止後の利用手段を速やかに決定する必要がある、とのご意見をいただきました。

続いて、3の適正規模・適正配置については、第2回検討委員会でいただいたご意見から、本日を含む今後の会議の中で、アンケート調査結果などに基づき議論を深めていただいた内容を集約し、答申書に盛り込んでいきたいと考えております。

これまでの協議の状況につきましては、ただいまお知らせしたとおりです。

事務局からの説明は以上でございます。

【委員長】

ただいまの説明の中で、ご意見ご質問がありましたらお願いします。

【委員】

アンケート調査の29ページ質問23、「地域の一員として(コミュニティが)学校に求める機能は何ですか」について、これはどういう意図の質問でしょうか。

地域コミュニティというのは、地域の一員ではなく、地域の窓口、地域の代表という定義なんです。

【事務局】

地域コミュニティが地域の皆さんの代表をしてくださっていることはもちろん承知しております。

今回のアンケートは、地域コミュニティ協議会の代表をしてくださっている方はもちろん、一般の保護者の方や、市民の方、若者や幅広い世代の方も含めて対象とさせていただきます。

当初は、「地域コミュニティ」という形で記載していたのですが、市民の皆様に広く通じる言葉ということで、「地域の一員として」という言葉を使わせていただいているものです。

広く市民の方々が、「自分が学校に求める機能は何だろう」という主体的な考えでお

答えいただくために、このような書き方にさせていただきました。

ご理解いただければと思います。

【委員】

わかりました。

【委員長】

今のご意見は、徳島市での「地域コミュニティ」という用語の使い方の定義を庁内で統一する必要があるということですね。

今回のアンケートは、地域に住む人が対象ということで、「地域の一員」という言葉に置き換えたということによろしいでしょうか。

【事務局】

そうです。

【委員長】

その他いかがでしょうか

【委員】

アンケート調査の 29 ページ質問 23 で、(全体の)地域の回答者数が 207 人となっていますが、回答率は出ないのででしょうか。

【事務局】

こちらは、広く市民全員の方を対象にしているので、母数を表すのが難しいため掲載は控えさせていただいております。

【委員】

わかりました。

【委員長】

徳島市の人口約 25 万人から小中学生、保護者、教職員、未就学児等、そういったところを除いて母数を表すのは難しいので、今回は、回答者数が 207 人だったということで理解しました。

その他いかがでしょうか。

後半の学校プール、学校給食調理場、こちらについてもご意見ございませんか。

【委員】

————— 意見なし —————

【委員長】

ご意見ないようですので、後半の付随的検討事項について整理します。

2 ページに記載してあるとおり、学校プールについては、小学校では様々な手法を検討し、創意工夫をしながら存続することが望ましく、中学校では座学の履修が継続するものの、設備および施設については縮小や廃止を含め検討する。

学校給食調理場については、自校方式を改め、センター方式の導入を優先的に検討する。という方針でよろしいでしょうか。

【委員】

————— 異議なし —————

【委員長】

ありがとうございます。

続いて、アンケート調査の集計結果について事務局よりお願いいたします。

【事務局】

アンケート調査の結果について、ご説明いたします。

会議資料の3 ページ、アンケート調査の回答状況をご覧ください。

アンケートは、去る6月2日から6月20日までの19日間、実施いたしました。

その間、地域住民207人、小学生2,779人(3,502人中79.4%)、中学生4,059人(5,476人中74.1%)、教職員746人(1,413人中52.8%)、保護者2,811人、合わせて1万(10,602)人を超える方々からのご回答をいただきました。

資料の5 ページをお願いします。

その他意見を含むアンケート調査結果の全容は現在取りまとめ作業中であり、完成

次第、皆様に共有させていただく予定としておりますが、本日の会議資料には、質問項目別の得票率を、回答者の属性ごとに表示した表を掲載しておりますので、こちらを参考に協議をいただきたいと考えております。

今回のアンケート調査では、複数回答が可能な質問もございましたので、それぞれの対象回答者数を分母に、その得票数を除した得票率により、お示ししております。

また、第2回会議での委員からのご指摘を踏まえ、全体と小規模校および小規模校区の方々の回答状況が比較できるよう、表中左側に全体の回答を、右側に小規模校の回答のみを抽出・再掲しております。

また、事前に検討委員の皆様にご回答いただきました内容も、表中、左側に掲載させていただいておりますが、手直しする前のアンケートでございましたので、若干、他の対象者と質問内容が異なっておりますことを、ご了承ください。

なお、表の見方としましては、斜め線で枠を消しているものは該当対象者に質問していない項目を示しており、枠内に「—：横棒：ハイフン」でお示ししている項目は、得票の無かった「いわゆるゼロ回答」であったことを表現しています。

また、各対象者別に最も多く回答を得た枠には「色付け」をしております。

設問ごとの回答の状況につきましては、これからの議論の中でご確認・意見交換をいただきたいと考えておりますので、事務局からの説明は省略させていただきます。

3 適正規模・適正配置に向けた検討

【委員長】

資料の5ページから29ページに、アンケートの集計結果が記載されております。

若干、集計方法（パーセント部分）について、当初の資料から修正されているようですが、得票が多かった箇所が黄色で塗られている部分については、そのままと理解しております。

では、この内容に沿って、適正規模・適正配置に向けた検討協議を進めてまいりたいと思います。

まず最初に、5～7ページ質問1.2、「今後の学校教育への期待について」と、29ペ

—質問 23、「学校に求める機能」について、ご意見ございましたらお願いします。

なお、本委員会の委員が 12 人ですので、得票の割合でいうと 1 人が約 8 ポイントあるため、なかなか委員の意見と保護者、地域、児童生徒の意見とが合ってくるというのは難しいところがありますが、全体を通して、黄色のマーカーで塗られたところは大きく開きがないのかなと理解しております。

————— 意見なし —————

回答結果を見てみますと、質問 1 では、主に「基礎的な知識や技能の力を伸ばす」ことを学校に求めている、質問 1-2 では、「生活のなかでの必要な学力や能力を伸ばしたい」という意見が多く選択されていることが分かります。

次いで多いのが、質問 1 では、「思いやり・協力」という集団生活の中で育まれる能力であったり、質問 1-2 でも、「思いやりと感謝・尊重の心」や「自分で考え、判断し、行動する力」等が選ばれています。

また、質問 2 の「どのような特色のある教育を受けさせたいですか」という問いには、昨今の「外国語教育」であったり、「プログラミング等の ICT 教育」等が選ばれています。

ご意見いかがでしょうか。

【委員】

この質問 1.1-2、質問 2 については、保護者の方あるいは地域の方が今現在どのような教育を望んでいるか、という現状を示したものであって、国の方でも、将来的にどのような人材を育成するかという方針が示されています。

例えば、経産省の未来人材に関する資料には、今の学校教育では、「知識や技能」を基本としているが、今後はそれを半分程度に減らして、あとは「探究的な力」であるとか、「学ぶことが楽しい」、あるいは「集中して自分の好きなことをやり遂げる」といった部分に時間を費やした方が良いのでは、ということも言われています。

そういう意味では、国の一党と、実際に徳島市在住の方々の意見をどのようにすり合わせていくのか、あるいは、「こういう思いについては、次の適正規模を考える上で、こういうふうに大事にします」といった説明をすることが大事になってくると思われました。

【委員長】

その他いかがでしょうか。

【委員】

質問 1-2 の、「学校でどのような力を伸ばしたいですか」という問いに対して、子どもたちの回答が、4 番の「自分で考え、判断し、行動する力」という回答が全体的に非常に多いなと感じました。

これは今、小中学校の先生方が、こういうことをしっかりと教育をされていて、その成果として、子供たちも「こういうことが大事なんだ」と認識しているんだと感じています。

ここは、私が思っていた以上に得票が多く、今の学校教育はこの方向で進んでいるということが広く理解されているんだと思いました。

質問 1 を見ると、委員の回答は 6 番の「自主性・自律」の意見が多かったんですが、保護者・地域の方に関しては、そこは少し低かったかなと思いました。

というのは、自分たちが多分そういう教育を受けていないからかな、と思います。

学校というのは、教えてもらうというか、少し受身的な教育とされていたので、そういう教育を受けてきて、学校はそういうものという認識がまだ根強いところがあると思っています。

しかしこれからは、「自主性・自律」というのをどこまで伸ばせるかというのが、このテーマにも合っているかなと思います。

それと「思いやり・協力」というのが全体に非常に高かったのは、これまでも学校が大事にしてきたことですが、これからも、ますます大切になると私自身も感じているところです。

学校教育が頑張っている成果も出ているのかなと感じました。

【委員長】

質問 1 と 1-2 で、保護者と小中学生を比較すると、保護者と児童生徒が重視している部分が一致しているようにも感じました。

その他いかがでしょうか。

【委員】

質問 1-2 で、子供たちがどのくらい回答したのか、パーセンテージに視点を当てて見ますと、小中学生ともに、多くの子供が概ね3つの回答をしていることが分かります。

つまり、この選択肢が子供たちにとって適切な選択肢であったと感じています。

子供たちが3つ選べる選択肢があったというところで、意義のあるアンケート内容であったと思います。

【委員長】

複数選択の回答って、1つだけぱっと選んでしまいがちですが、3つまでという中で、「どれがいいだろう」と子供たちもしっかりと考えて出た結果かなと思います。

その他いかがでしょうか。

【委員】

————— 意見なし —————

【委員長】

ただいまのご意見を踏まえますと、当委員会としては、今後の学校には、子供たちの快適な学習環境の構築を目指しながら、その中で、質問1の回答1番「基礎的な知識や技能」を基本としながら、6番の「自主性・自律」あるいは11番の「思いやり・協力」こういったところを重要視していく場になるよう整えていく、という基本的な方針で議論を進めていくということによろしいでしょうか。

【委員】

————— 異議なし —————

【委員長】

続いて、アンケート調査8ページの質問3「小学校の望ましい学級数」、19～20ページの質問14、14-2「クラス替えの必要性」と「その理由」にある学校規模に関するものと、23～24ページの質問19～21にある小規模校に関する回答結果を踏まえて、適正規模に関する皆さんのご意見をいただきたいと思います。

【委員】

質問3の回答について、小規模校の小学生は、望ましい学級数として「1学年1クラス」、つまりクラス替えが必要ではないと思う子供が半数程度いたということですよね。

また質問14の「クラス替えの必要性」についても、小規模校の小学生は「クラス替えが必要とは思わない」という回答が多いことが分かったので、規模で分けて集計していただいてよくわかりました。お手間をかけていただきありがとうございました。

小規模校の子供たちにとって、クラス替えというのは「してみたいな」という夢みたいなのがあるのかなと思っていたんですが、実際はそうでもないんだなというのが分かりました。

みんな、その場の環境に順応して、その場その場でできることを考えてやっているんだなと感じました。

なので一定数の小規模校は、やはり存在する意味があるんじゃないかなと感じました。

【委員長】

質問3あたりから、全体の数字と小規模校の数字を比較すると、全体の数字よりも小規模校の方が若干小さい方に動いていくという傾向があったのですが、質問14の「クラス替えの必要性」の部分については、「クラス替えが必要ではない」と答えた小学生が全体で7.2%、小規模で31%という結果になっています。

【委員】

質問14について、小学生は31.6%が「そう思わない」ということですが、これは、学校が子供たちのケアをしてくださっていることで、子供たちの生活が安定し、落ち着いているということが分かります。

しかし中学生になると、「クラス替えの必要性」を感じている子供たちが増えていることが少し心配になります。

また、クラス替えが常に行われている学校の子供たちは、やはり「クラス替えが必要」と感じている子供が多いというところで、いろいろな人間関係や、生活の中で考えることがたくさんあるんだなと読み取れました。

【委員長】

質問 14 について、小学生と中学生の比較をしてみますと、小規模校の児童は、まだクラス替えを経験したことがないので、他の子と仲良くできるかなという不安もあって「そう思わない」という意見が多いのかなと思います。

一方で、中学生になり複数クラスになっていくうちに、2年生3年生で「クラス替えてこういうものか」とか、新しい友達もできたり、心境の変化なども関係するのかなと思います。

その他いかがでしょうか。

【委員】

クラス数については、1学級何人かという要素もあると思います。

例えば1学年60人だとして、20人の3学級っていうのと、30人の2学級ですね、そういう要素もあるので、確定的というよりは揺れがあるのかなと思います。

国の適正規模・適正配置の定義では、「1学年1学級になったら、適正な規模・適正な配置の検討に入ったほうが良い」という指針がありますので、最低でも1学年1学級になったとき、もしくは、複式学級は避けたいので複式学級になりそうな時点で検討を始めるのか。その辺の議論が必要かなと思いました。

【委員長】

今のご意見は、8～10ページ質問3～5の、「学級数をどうするか」というところで、小学校で見ますと、標準というか、現行の規模程度で「1学年2～3学級」の回答が多かったように思います。

質問5の、小学校の1学級あたりの児童数については、現行は35人ですが、回答では、30人、25人と小さい規模の回答が多く、国の基準に従って35人にするよりは、地方都市ですと、30人、25人と少しコンパクトな形でまとめていても良いのではないかなという意見が多かったと思います。

中学校についても、12～13ページ質問7.8のところ、概ね小学校と同じような意見が多いですが、質問7の中学生の回答では、学校規模によって少し内容にバラつきがあります。

これは、自分の育った環境や今見ている環境等、自分の経験から回答を選択してい

るのかなと感じます。

16～18 ページ質問 11～13 の複式学級について、「規模が小さくなっていったときに複式学級をどうするか」というご意見で、こちらも若干ばらつきがあるのかなと思います。

【委員】

この質問で私が注目したのは、教職員の意見です。

例えば、質問 11「複式学級についてどう思いますか」について、全体では「適正化が必要である」という回答が多いのに対し、小規模校では、「適正化が必要である」に加え、「複式学級の編成は避けるべき」という回答が多くなっています。

質問 9 の「1 学級あたりの人数」についても、他の属性の方々は、「30 人程度」の回答が多いのに対し、小規模校の教職員は「25 人程度」の回答が多くなっています。

これは、子供たちの目の届きやすい、あるいは複式学級の業務量が非常に多いという点から、少しでも人数が少ない方が良いという傾向、あるいは複式学級は避けたいという傾向が見られるのかなと思います。

【委員】

10～11 ページの質問 5～6、「1 学級あたりの望ましい児童数」「1 学級あたりに必要な人数」については、学校の現状を言いますと、今、「1 学級あたり 35 人」という標準の児童数にはなっていますが、事実上いいますと、各学校には支援学級の子供がおりまして、1 日の約半分は協力学級（通常学級）に行って授業を受けるんです。ということは、標準 35 人だとしても、そこに支援学級の子供たちが入って、40 人程度で勉強しているクラスもあります。

そういうことで、教職員の「25 人程度」という回答は、支援学級の子供が来た場合の+5 人（30 人程度）のイメージを持って回答しているのかなと思います。

もう一点、19 ページ質問 14 の「クラス替えの必要性」については、「そう思う」と回答している教職員が非常に多いですが、これは、各校の教職員が常日頃、保護者の方からクラス替えについて多くの要望を受けており、様々な人間関係がある中で、複数クラスがないと対応できないという実感がここに表れているのかなと感じました。

【委員】

現在徳島県では、35人学級を標準として学校編成を行っております。

ただ、やはり先ほど委員がおっしゃったように、特別支援学級の協力学級ということで、通常学級へ入ってきた場合は、35人を超えてしまいます。

学校として、教える側の適正な規模を考えたときに、県の校長会の方でも大きな議題となっており、県教育委員会に対して「1学年30人学級」ということを要望として、提案をしているところです。

その点からいうと、教える側の考えとしては「1学年30人程度、もしくは30人以下」が適正ではないかという考えで進めております。

【委員】

6～7ページ質問1-2～2の子供たちの回答、17～18ページ質問12～13の教員の回答を見てみると、子供たちの「いろいろ学びたい」気持ちと教職員の「いろいろ学んでもらいたい」気持ちの両方の意見が結果に表れているなど感じます。

また、「学校でどう過ごすか」という部分と、(1学級の)人数が多いと「もう少し見てもらいたいな」という気持ちや、「こういうことを知りたい、学びたい」と思っている子供たちが結構多いんだなど感じました。

【委員】

民生委員の立場として、一番気になるのが29ページ質問23の「地域の一人としてコミュニティが学校に求める機能は何ですか」です。

回答の選択肢にはないんですが、私が一番思うのは、「学校が地域の活性化の力になる」ということです。

私は、自宅で子ども食堂をやっていますが、いろいろなものを提供する中で、私が一番大事にしているのは、子供たちの挨拶の声の大きさです。

子ども食堂には、150人程度の子供たちが来てくれていて、私は必ず「よく来たね、いらっしやい」という声かけをしています。

最初はなかなか挨拶をししてくれなかった子供たちも、2年間の間にできるようになり、声の大きさもぐっと上がってきます。

挨拶ができる子供を増やして、その声の大きさが1段階、2段階、2年間かけて大き

なくなってきました。

学校の方でも、同じようにご協力いただけたらありがたいなと思います。

私どもコミュニティの立場としては、学校や教育委員会において、挨拶が大きな声でできるような教育をお願いできたらと思います。

【委員】

16 ページ質問 11 の「複式学級についてどう思いますか」に対して、「問題ない・やむを得ない」という回答が比較的多く、次いで「学校規模の適正化が必要だ」という回答が多くなっています。

この「問題ない・やむを得ない」が一つの選択肢となっていますが、この二つの言葉の意味には、だいぶ開きがあると思います。

過去に小規模校で勤めていた経験がある場合に、人数が少なく、学年合わせて 5、6 人しかいないから「やむを得ない」と感じることもあります。ただ、「問題ない」とは思ってはいない。やはりもう少し人数がいて、子供たち同士で切磋琢磨して、たくさん的人数で楽しく遊んだり勉強できたらいいなと思ったりするので、ここの「問題ない」と、「やむを得ない」というのはちょっと開きがあるかなと感じています。

もう一点、特に中学校では、不登校というのが大きな問題になっていて、少子化が続く一方で、不登校の子供たちの数っていうのは、例年増加傾向にあります。これは徳島県も全国でも同様の傾向がございます。

そういった中で、本校でも不登校を何とか解決して、できるだけ再登校できるように 1 月～3 月までの 3 ヶ月位ずっと時間をかけて、新しい学年の学級編制について検討し、いろんな角度から人間関係等を考慮し、そこを第一にした学級編制を行いました。

それによって、昨年度より再登校できる子が増え、不登校の数を現時点ではずいぶん抑えることができました。その点では、やはりクラス替えがあることで救われた子供たちがいるんだなと感じております。

【委員】

不登校についてですが、私どもの子ども食堂にも不登校の子が 2 名、ひきこもりの子が 1 名来てくれています。

食堂にご飯を食べに来る、レクレーションにも参加する、それでも学校には行けない子供たちがいます。

子供の居場所ということで子ども食堂をやっていますが、少しずつでも社会参加を続けていくことが一つの契機になるんじゃないかと思っておりますので、是非ご利用いただけたらありがたいなと思っております。

【委員】

28 ページ質問 22 の選択肢 5 番、「学校と地域コミュニティの繋がり」について、これまで私たちは、学校と地域で相談しながら、色々と繋がりを作ってきたんですが、最近は先生が忙しいことや、子供の数も減ってきて、地域の助け合いが少なくなったように思います。

学校と地域の繋がり是非常に大事で、地域の文化や地理を教えたり、防災のことを教えたり、地域が子供に教えることはたくさんあるんです。

ですから、地域と学校は縁を切らずに、助け合って子供たちを成長させていってほしいと思います。

質問 1-2 の「あなたは学校でどのような力を伸ばしたいですか」について、最近の保護者は、参観日にはたくさん来ても、PTA 総会にはほとんど来ないということを知ります。我々が PTA をやっていたときは、ほとんどの保護者が総会に出ていたように思います。

最近は、社会構造が変わり、夫婦共に働くようになったり、大変忙しくなったんだろうと思います。

それでもやはり社会というのは、お互いに助け合って共に生きていかないと上手くいかないと思います。

行政においても、地域のボランティアによって助けられることがあると思っております。昔の社会は、80%~90%が地域のボランティアで成り立っていると聞いておりますが、確かに民生委員の方々、補導員の方々、防犯の方々、いろいろな団体があって、地域を安全にまとめていたと思っております。

ですので、先生方も大変お忙しいとは思いますが、小中学校でも、公共性であるとか、ボランティア交流や公共支援をする力の教育について、是非ご指導いただきたい

と思います。

【委員長】

私の子供がこの春まで通っていた小学校は小規模校で、今年度上がった中学校は4クラス規模の学校です。

妻が話していたのが、中学校の最初のPTA総会の際、まさに今、委員がおっしゃったように、小規模校から上がった保護者は、ほとんどが総会に参加していたが、中学校で一緒になった他の保護者の方はあまり来ていなかったということで、なるほどと思いました。

そういうお話を聞くと、地域との繋がりがって、大規模校になると難しいのではなく、大規模校の地域は、住宅を開発する余地があって、小学校に上がるタイミングで住み始めたメンバーが、地域と結びつくのがなかなか難しいという要因もあるのかなと思います。

私が住んでいた（小規模校の）地域だと、良くも悪くもみんながPTAには参加するものだという雰囲気があり、地域との繋がりが強かったように思います。

どちらが良いというのではないですが、地域との繋がりを考えると、できるだけ参加してくれるような雰囲気作りというのも重要だと思います。

【委員】

学校に行きづらい子供たちの居場所として、子ども食堂であったり、地域の各コミセン、児童館、また放課後いろいろと活動されているところというのは非常にありがたいと感じております。子供たちが行ける場所として、今後もどんどん発展していただけたらなと思っております。

挨拶についても、学校の方で、挨拶運動等、子供たちが率先して行っていますが、やはり苦手な子供たちもいますので、そういう場合は、地域の方々にもお声掛けいただいて、学校で推進していることを広く皆さんでやっていけたらいいなと考えております。

また去年、PTA連合会の方で会長をしております、徳島市・名東郡のPTA会長さん全員集まっているとお話していましたが、やはりコロナの影響で活動が少し衰退しておりましたし、昨今のPTAの報道等で良くないイメージが見聞きされ、参加

しづらくなっていたように思います。

子供たちだけでなく、親御さん同士のコミュニケーションだとか、先ほどもおっしゃっていたように、学校に上がるタイミングで引っ越して来られたり、複数の小学校から中学校が一つになったりしますので、そういった部分も兼ねて交流があれば、ということで、交流の場を企画していただきたいとご依頼いただいています。

そういったことも、学校の中でお伝えできたらなと思っているのと、地域、学校の先生、児童生徒、保護者同士も知ることがとても大切だなと思います。

また先日は、ある学校活動の中で、子供たちが地域の清掃を行い、地域の方々からたくさんのお褒めの言葉をいただき、子供たちは非常に誇りに感じていたようです。

やはり地域とのコミュニケーションや、わかり合うこと、また助けていただいているということがわかる場所はとても大切だと思いますので、今後も続けていけたらなと考えています。

【委員】

今、学校の方でも、「コミュニティ・スクール」を推進していると思うんですが、なかなかこれだけ変化の激しい世の中で、学校だけで子供たちを教育するという時代ではないと思っています。

地域の方や、いろいろな取り組みをされている方を含めて、子供たちと一緒に育てていく「コミュニティスクール」というのを、もう少し目指しているところをしっかりと皆で共有できたらなと思っています。

システム的に、「学校運営協議会」という形はできていますが、実際目指しているところにまだ行っていないというか、学校と地域が同じ目線で子供たちを育てていくというところにもう少し近づけていけたらいいなと感じました。

実際、地域でいろいろなことをしてくださっている方がたくさんいらっしゃいますので、その方たちと一緒に活動できるような、そんな学校作りが徳島市でできればいいなと思います。

アンケートについては、16 ページ質問 11 の「複式学級についてどう思いますか」の回答結果が一番印象に残りました。

私が教育委員会に勤務していたとき、複式学級になるかもしれない児童数の学校

は、必ずと言っていいほど「複式にしたくないので加配がほしい」であったり、「教頭が担任をするので複式を避けます」というような、複式にはしたくないという学校の要望が多かったので、「複式学級はできるだけ避けたい」という意見が多いと思っていました。

地域や教職員もそういう結果になっているんですが、実際に関わっている人たちのポイントが高いというのは、先ほど委員がおっしゃったように、「やむを得ない」というような状況というか、「今の状況でいけば複式学級がやむを得ない」というように捉えた人が多かったのかなと解釈しました。

実際、複式学級をうまく運営されている県西部の小規模校を視察したことがあるんですが、先生はスーパーマンかなと思いました。

両方に黒板があって、別の教科をしているんですが、1人の先生がそれに対応していて「この先生はすごいな」と思いましたが、それを全ての先生に求められるかと言うと、「私にはこれはできない」と思ったので、かなりのスキルがいることだなと感じました。

教職員の「複式はできるだけ避けたい」という意見には、そういう意識があるのかなとも感じています。

【委員】

今回のアンケートで、私の専門分野は通学の部分なんですが、28 ページ質問 22「学校の適正規模・適正配置で重視すべき点は何ですか」の回答結果は非常に興味深く思いました。

委員や教職員は、学校側の視点で見ているので、「学校規模」の方を重視していますが、保護者や地域は、「通学距離・通学時間」を重視していることが見えました。

「通学時間・通学距離」も大事ということで、その点で見直すと、21 ページ質問 15 では、小学生は「30 分未満」で、これは委員の意見と一致しているんですが、中学生については、委員は「1 時間未満」の意見が多いのに対し、地域、保護者、教職員ともに「30 分未満」という回答となっています。

22 ページ質問 17. 18 の回答を踏まえますと、小学生は「徒歩で 30 分未満」、中学生は「自転車で 30 分未満」という結果になります。

家族の送迎についてもどう考えていくのか議論が必要だと思います。

【委員長】

通学の距離や時間のところで、小学生と中学生で通学の方法が異なりますので、距離換算すると小学生の30分1.8km~2km、中学生の自転車で30分となると4kmから5km、その位かなと。

距離で見ると倍位ですが、時間的にやはり通学にける片道の適正な時間は30分で、それを超えると難しいのかなと思います。

家族の送迎を見ますと、全体の意見の中で一定数の割合を占めていて、距離が近くても家族が送迎するという生活スタイルの層もいらっしゃるようなので、この辺りは今後どう検討するか議論が必要かだと思います。

【委員】

先ほどの22ページ質問15.16、「通学時間」について、例えば「徒歩1時間」と「バス1時間」では大きく意味が違うので、この辺がこの質問では取りきれなかった部分かなと思います。

もう一点は、話を戻して大変恐縮なんですけど、16ページ質問11のところ、「子供の居場所づくり」や「子ども食堂」など、いろいろなご意見がありましたが、これらは小規模校をいかに存続させるかという議論の際に、地域やコミュニティの協力を得られる体制作り等の話が必要になってくるのかなと思います。

不登校やいじめ等の問題から、子供たちが避難できるフリースクールや子ども食堂のようなものが作れるか、そういう点が次のポイントになるのかなとも感じました。

【委員長】

時間も迫ってまいりましたので、意見をまとめていきたいと思います。

まず、前半の「適正な規模」について、最終的には次回の会議で議論していきたいと思いますが、アンケートの結果および皆様ご意見をまとめますと、「適正な規模」については概ね、「小学校では2学級から3学級」、「中学校では3学級から5学級」このあたりが多いかなと思います。

それをもう少し下回る「少なくとも」、というところかというと、「小学校では1学級から2学級」、「中学校では2学級から3学級」、この辺りの意見については検討が必要

だと思えます。

また、数字（％）について、今回が色が塗ってある部分を中心に議論したので、次回それ以外の具体的な数字について、次回の会議でお示しできたらいいと思えます。

続いて、「通学の適正な配置」については、通学時間について、小学校も中学校も概ね「30分程度」。通学方法は違うと思えますが、30分を超える場合は、スクールバス等の何らかの代替措置を講ずる必要がある。

第3回会議をまとめますと、こういった内容になるかと思えますがよろしいでしょうか。

【委員】

————— 異議なし —————

【委員長】

ありがとうございます。

少し時間がありますので、28ページ質問22、「学校の適正規模・適正配置で重視すべき点は何ですか」について、教職員は、「学校の規模」を重視しているのに対し、保護者、地域の皆さんは「通学距離・通学時間」を重視しています

また、「通学路・通学方法の安全性」については、通学時間が延びてきますと、その分こういったところも問題になってきますので、適正な通学時間というのが重視されてくるのかなと思えます。

【事務局】

事務局からよろしいでしょうか。

この28ページ質問22について、今委員長がおっしゃったように、「通学路・通学方法の安全性」というところが、保護者や地域の方、教職員の方も含めて高い割合になっていると思えます。

他都市の基本方針等を拝見しますと、例えば「幹線道路をまたがない」や、「大きな河川をまたがない」というような校区編成にすることや、通学の安全性等に配慮した校区の考え方というのが、基本方針や計画に示されているケースもございます。

もしそういった部分で何か「ここは重要ではないか」というようなご意見等ありましたら承りたいと思っております。

【委員長】

現行の通学方法の中で、徳島市では「大きな河川をまたがない」とか、「幹線国道をまたがない」とか、何か現在ルールはあるのでしょうか。

【事務局】

吉野川に関して言いますと、吉野川は校区でまたがないようにはなっておりまして、吉野川北岸については川内、応神という形で校区編成されております

ただ、幹線道路でいいますと、バイパスや国道 192 号線などの大きな道路をまたがって校区が繋がっているところもありますので、その部分について、絶対にまたがないという校区割ができるかどうかというのは、要配慮事項として今後検討する必要があるのかなと思います。

また校区割を考えると、先ほど委員がおっしゃったような、コミュニティや地域との繋がりを重視するのであれば、今までの行政区割りを踏まえて検討するとか、中学校区の区割りを超えないとか、そういうことも検討する必要があると感じております。

【委員長】

私が以前に参加していた小松島市の適正配置の議論の中でも、地域との繋がりを考慮して、元々の小学校の校区は割らないということになりました。

そうすると、多少通学距離が伸びてくる学校もありましたが、そこはスクールバスを手配するという対応になりました。

できるだけその地域で暮らしている児童生徒の意見を尊重してまとめていったという経緯があります。

【委員】

幹線道路の件ですが、私は以前に川内中学校で校長をしていましたが、そのときに一番心配だったのが、「子供たちが無事に学校に来て無事に家に帰ってくれるか、自転車で事故が起こらないか」ということでした。

川内中学校はバイパスを横切るんですが、バイパスは人目も多く信号もあり、子供たちも気をつけるので事故はほとんどなかったです。逆に、慣れている細い道からの飛び出し等で起こる事故が非常に多く危険だと思いました。

【委員】

川内中学校で子供がお世話になったんですが、幹線道路のところでは、PTAの保護者の方が朝に立哨（旗）当番をしていたり、PTA以外の方でも見回りやパトロール等、地域の方に大変お世話になった実感がありますので、そういう意味でやはり地域との繋がりというのは重要なことと考えます。

【委員】

交通安全についてもそうですが、校区編成で地域が広がりますと、防犯の方も心配な親御さんが多いんじゃないかなと感じます。

私も青パトという、子供たちが帰る時間帯に見回りをするような活動をしています。その際に年配の方でよく日焼けされている方がいたので、話を聞いてみると、「毎日3時間原付に乗ってパトロールをしている」とおっしゃっていました。

地域が広がりますと、気になる部分も多くなるので、その場合はスクールバスやスクールタクシーの導入を率先して検討いただけたらなと思います。

先日、北井上のPTA会長とお話したんですが、校区が広がるようであれば、交通安全にプラスアルファで防犯の部分も考えていただきたいというお声をいただいております。

【委員長】

私の子供が通っている学校の登録メールに、2ヶ月に1回程度、いわゆる不審者情報が届くんですが、そういうのを見ると少し心配になります。

通学の安全の面については、朝の時間はPTAの方が立哨（旗）で立ってくれているんですが、夕方の下校時間は、オレンジのチョッキを着た社協の方が立ってくれています。

そういった形で、地域の中で役割分担しながら安全性を確保する等、どういう仕組みが良いのかは、それぞれの地域で考えていただけたらなと思います

【委員】

市立中学校の適正規模・適正配置について、私個人の意見としては、適正規模は、「1 学年 3 学級」、人数は「25 人程度」が良いと思います。

また適正配置については、通学時間が「30 分程度」で徒歩で行ける範囲のところを一体化・統合する、それ以上のところは、小規模校でもそのまま残すという考え方でまとめていくのが良いと思います。

【委員】

地域と学校を繋ぐというお話について、小規模校では、学校の先生の負担というのが必ず議題になると思います

そうしたときに、学校の先生が例えば「花壇の草抜きが負担なんだよね」という発信ができれば、地域で有志を募って協力してもらうことも可能だと思います。

学校が負担に感じていることや手が回らないことを地域に発信することも必要だというお話が、先日のコミュニティ・スクールでも出ていました。

地域と学校の間立つコーディネーター的な存在があって、学校の要望を聞いて、「町の方でこういうことができますか」とあるとか、町の方も「地域の活性化のために、学校でこういう活動をしてくれませんか」というのを、間に立って伝えてくれる人がいれば、もっと子供たちが地域に出てくる機会になるし、保護者も学校に入る機会が増えて、結果として子供が卒業して PTA を離れても、地域の活動に参加してるのではと感じています。

町で夏祭りを企画したときに、「サポーターとして来てくれませんか」と町の方に投げかけたときに、PTA 活動で町の活動にも参加されていた方は、そのまま活動を継続してくれる場合が多いので、学校と地域の間立つコーディネーターの人材を育成するというか、そういうポジションを作る動きがあってもいいのでは思いました。

【事務局】

今いただいたご意見について、そういったコーディネーターの役割をされている方は実際おいでまして、「地域活動推進員」という役割なんです、徳島市ではまだ未設置となっております。

所管が社会教育課になりまして、本日こちらにいないんですが、こういったご意見をいただいたということは共有させていただきまして、今後の検討課題とさせていた

だきます。

【委員長】

3回にわたり実施してきた当委員会の運営ですとか、来週、第4回目の会議で議論したい内容等ございましたらお願いします。

【委員】

————— 意見なし —————

【委員長】

他にないようですので、本日の議事は終了したいと思います。

次回、アンケート結果のうち、自由記述欄でご意見をたくさんいただいておりますので、重要と思われる事項について、皆様のご意見をお伺いする形で、まとめていくことになっております。

事務局から事前に共有されるアンケート調査結果の詳細については、次回会議までにご覧いただけたらと思います。

委員の皆様、本日も長時間にわたりご審議いただきありがとうございました。

【事務局】

それでは、以上で第3回徳島市立学校適正規模・適正配置等検討委員会を終了します。

委員のみなさま、長時間にわたるご議論ありがとうございました。

4 閉会